

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 05281533 A

(43) Date of publication of application: 29 . 10 . 93

(51) Int. Cl

G02F 1/1333  
G09F 9/35

(21) Application number: 04080935

(71) Applicant: SHARP CORP

(22) Date of filing: 02 . 04 . 92

(72) Inventor: NAKAMURA HISAKAZU  
MITSUI SEIICHI

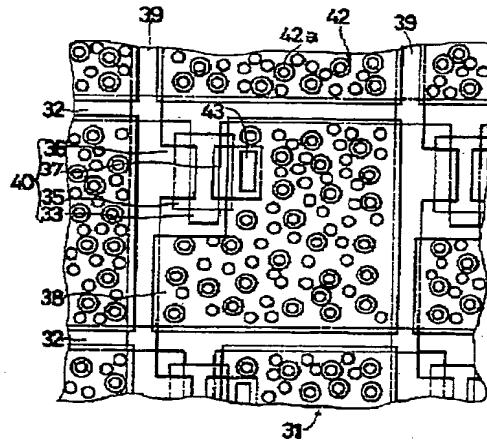
(54) REFLECTION TYPE LIQUID CRYSTAL DISPLAY  
DEVICE AND ITS MANUFACTURE

reflex characteristic.

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide a reflection type liquid crystal display device having excellent reflex characteristic by forming the sectional shape of a reflector out of fine convexities of doughnut-shape or mixture of circular-shape and doughnut-shape, and arranging the convexities irregularly.

CONSTITUTION: A pair of transparent boards 31 face to each other sandwiching a liquid crystal layer. An insulating film 42 having irregularity is applied to a liquid crystal layer side on one of the boards 31, and thereon plural reflex electrodes 38, being display picture elements reflecting incident light from the other board side, are formed, and a common electrode, having translucency on nearly the whole face thereof, is formed on the liquid crystal side of the other board 31 so as to form a reflex liquid device. In the reflex liquid device, the sectional shapes of protrusions are a fine doughnut-shape 42a or mixed with a circular-shape 42b, and the arrangement thereof is irregular. As an irregular portion is formed by using a mask, the shapes, particularly the depths of dents are uniform. Therefore poor insulation is not allowed to give damage to elements, and scattered incident light allows bright



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-281533

(43)公開日 平成5年(1993)10月29日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup> G 0 2 F 1/1333 G 0 9 F 9/35	識別記号 5 0 5 3 4 5	府内整理番号 9225-2K 6447-5G	F I	技術表示箇所
--	------------------------	------------------------------	-----	--------

審査請求 未請求 請求項の数2(全9頁)

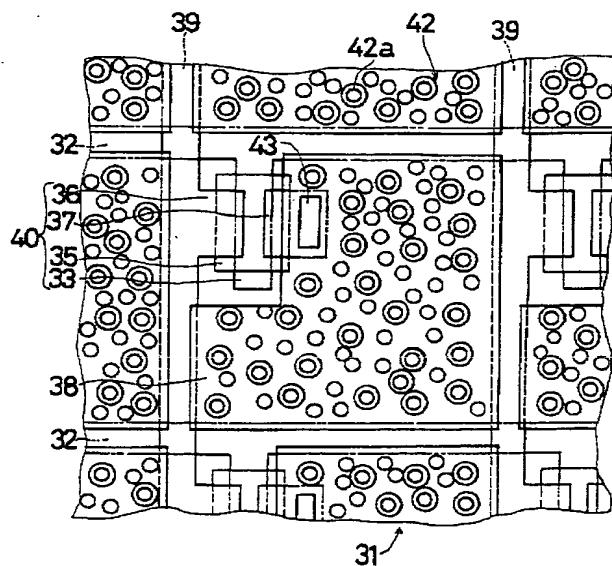
(21)出願番号	特願平4-80935	(71)出願人 000005049 シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
(22)出願日	平成4年(1992)4月2日	(72)発明者 中村 久和 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ ャープ株式会社内
		(72)発明者 三ッ井 精一 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ ャープ株式会社内
		(74)代理人 弁理士 西教 圭一郎 (外1名)

(54)【発明の名称】 反射型液晶表示装置およびその製造方法

(57)【要約】

【目的】 良好的な反射特性を有する反射型液晶表示装置を再現性よく得る。

【構成】 反射板上の液晶層側に断面形状が微細なドーナツ形または円形とドーナツ形の混ざった凸部面を有する絶縁膜を設け、その上に反射電極を形成した反射型液晶表示装置。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 液晶層を介在して対向配置される一対の透明基板のうち、一方の基板上の液晶層側に凹凸を有する絶縁膜を塗布し、その上に他方の基板側からの入射光を反射する表示絵素である複数の反射電極を形成し、他方の基板上の液晶層側にはほぼ全面にわたって透光性を有する共通電極を形成して構成される反射型液晶装置において、

前記凸部の断面形状が微細なドーナツ形または円形とドーナツ形との混ざったものであり、その配置が不規則であることを特徴とする反射型液晶表示装置。

【請求項2】 液晶層を介在して対向配置される一対の透明基板のうち、一方の基板上の液晶層側に凹凸を有する絶縁膜を塗布し、その上に他方の基板側からの入射光を反射する表示絵素である複数の反射電極を形成し、他方の基板上の液晶層側にはほぼ全面にわたって透光性を有する共通電極を形成して構成される反射型液晶表示装置の製造方法において、

前記反射電極側の透明基板上に有機絶縁膜を一様に塗布し、その上にホトレジスト層を塗布し、さらに微細なドーナツ形または円形とドーナツ形との混ざった透孔が不規則に形成されたマスクをホトレジスト層にあてて光を照射することによってホトレジストに孔をあけた後、エッチングを行って有機絶縁膜に凹凸部を作り、その上に金属薄膜を形成することを特徴とする反射型液晶表示装置の製造方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、入射光を反射することによって表示を行う反射型液晶表示装置およびその製造方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 近年、ワードプロセッサ、ラップトップパソコン、ポケットテレビなどへの液晶表示装置の応用が急速に進展している。特に、液晶表示装置の中でも外部から入射した光を反射させて表示を行う反射型液晶表示装置は、光源であるバックライトが不要であるため消費電力が低く、薄型であり軽量化が可能であるため注目されている。

【0003】 従来から、反射型液晶表示装置にはTN(ツイステッドネマティック)方式、並びにSTN(スーパーツイステッドネマティック)方式が用いられているけれども、これらの方では偏光板によって必然的に自然光の光強度の1/2が表示に利用されないことになり、表示が暗くなるという問題がある。

【0004】 このような問題に対して、偏光板を用いず、自然光のすべての光線を有効に利用しようとする表示モードが提案されている。このようなモードの例として、相転移型ゲスト・ホスト方式が挙げられる(D. L. White and G. N. Taylor: J.

Appl. Phys. 45 4718 1974)。この表示モードでは、電界によるコレステリック・ネマティック相転移現象が利用されている。この相転移型ゲスト・ホスト方式に、さらにマイクロカラーフィルタを組合せた反射型マルチカラーディスプレイも提案されている(Tohru Koizumi and Tatsu o Uchida, Proceedings of the SID, Vol. 29, 157, 1988)。

【0005】 このような偏光板を必要としないモードでさらに明るい表示を得るために、あらゆる角度からの入射光に対し、表示画面に垂直な方向へ散乱する光の強度を増加させる必要がある。そのためには、最適な反射特性を有する反射板を作成することが必要となる。上述の文献には、ガラスなどからなる基板の表面を研磨剤で粗面化し、フッ化水素酸でエッチングする時間によって表面の凹凸を制御し、その凹凸上に銀の薄膜を形成した反射板について記載されている。

【0006】 図10は、アクティブマトリクス方式に用いられるスイッチング素子である薄膜トランジスタ(以下、TFTと記す)1を有する基板2の平面図であり、図11は図10に示す切断面線X1-X1から見た断面図である。ガラスなどの絶縁性の基板2上に、クロム、タンタルなどから成る複数のゲートバス配線3が互いに平行に設けられ、ゲートバス配線3からはゲート電極4が分岐して設けられている。ゲートバス配線3は、走査線として機能している。

【0007】 ゲートバス電極4を覆って基板2上の全面に窒化シリコン(SiN<sub>x</sub>)、酸化シリコン(SiO<sub>x</sub>)などから成るゲート絶縁膜5が形成されている。ゲート電極4の上方のゲート絶縁膜5上には、非晶質シリコン(以下、a-Siと記す)、多結晶シリコン、CdSeなどから成る半導体層6が形成されている。半導体層6の一方の端部には、チタン、モリブデン、アルミニウムなどから成るソース電極7が重疊形成されている。また、半導体層6の他方の端部には、ソース電極7と同様にチタン、モリブデン、アルミニウムなどから成るドレイン電極8が重疊形成されている。ドレイン電極8の半導体層6と反対側の端部には、ITO(Indium Tin Oxide)から成る絵素電極9が重疊形成されている。

【0008】 図10に示すように、ソース電極7にはゲートバス配線3に前述のゲート絶縁膜5を挟んで交差するソースバス配線10が接続されている。ソースバス配線10は、信号線として機能している。ソースバス配線10も、ソース電極7と同様な金属で形成されている。ゲート電極4、ゲート絶縁膜5、半導体層6、ソース電極7およびドレイン電極8は、TFT1を構成し、該TFT1は、スイッチング素子の機能を有している。

【0009】 図10および図11に示すTFT1を有する基板2を反射型液晶表示装置に適応しようすれば、絵素電極9をアルミニウム、銀などの光反射性を有する

金属で形成するばかりでなく、ゲート絶縁膜5の上に凹凸を形成する必要がある。一般に、無機物から成る絶縁膜5にテープの付いた凹凸を均一に形成することは困難である。

【0010】図12は、アクティブマトリスク方式に用いられるTFT11を有する基板12の平面図であり、図13は図12に示される切断面線XII-XIIから見た断面図である。ガラスなどの絶縁性の基板12上にクロム、タンタルなどから成る複数のゲートバス配線13が互いに平行に設けられ、ゲートバス配線13からはゲート電極14が分岐して設けられている。ゲートバス配線13は、走査線として機能している。

【0011】ゲート電極14を覆って基板12上の全面に窒化シリコン、酸化シリコンなどから成るゲート絶縁膜15が形成されている。ゲート電極14の上方のゲート絶縁膜15上には、a-Siなどから成る半導体層16が形成されている。半導体層16の両端部には、a-Siなどから成るコンタクト層17が形成されている。一方のコンタクト層17上にはソース電極18が重疊形成され、他方のコンタクト層17上にはドレイン電極19が重疊形成されている。ソース電極18にはゲートバス配線13に前述のゲート絶縁膜15を挟んで交差する信号線として機能するソースバス配線10が接続されている。ゲート電極14、ゲート絶縁膜15、半導体層16、コンタクト層17、ソース電極18およびドレイン電極19は、TFT11を構成する。

【0012】さらにその上に複数の凸部20aを有し、ドレイン電極19上にコンタクトホール21を有する有機絶縁膜20が形成される。有機絶縁膜20上には、反射電極22が形成され、反射電極22はコンタクトホール21を介してドレイン電極19と接続されている。

【0013】以上のようにTFT11を形成した基板12上有機絶縁膜20を形成すれば、エッチング法を用いて有機絶縁膜20の表面に凸部20aを容易に形成することができ、凸部20aを有する有機絶縁膜20上に反射電極22を形成することによって、容易に凹凸を有する反射電極22を形成することができる。

【0014】

【発明が解決しようとする課題】上記文献に記載の反射板では、ガラス基板に研磨剤によって傷を付けることによって凹凸部が形成されるので、均一な形状の凹凸部を形成することができない。また、凹凸部の形状の再現性が悪いという問題点と、凹凸部の形状がパターン化できないという問題点があるため、このようなガラス基板を用いると再現性良く良好な反射特性を有する反射型液晶表示装置を提供することはできない。さらに、この方法はTFTなどのスイッチング素子を有した基板に対しては装置にダメージを与える危険があるために適用できない。

【0015】また前述の図10および図11に示される

ように、反射電極9とソースバス配線10とをゲート絶縁膜5上に形成する際には、反射電極9とソースバス配線10とが導通しないように間隙9aが形成される。しかしながら、前述の図12および図13に示されるように、ソースバス配線23をゲート絶縁膜15上に反射電極22を有機絶縁膜20上に形成すれば、前述のような間隙9aは不要である。

【0016】表示の輝度を向上するためには、反射電極22は大きいほど好ましい。したがって、図12および図13では反射電極22端部は有機絶縁膜20を介してソースバス配線23上にも形成され、図10および図11で示される反射電極9より大きい。

【0017】しかし、有機絶縁膜20は凹凸を有しているため、凹部が深くなり、凹部の底20bがソースバス配線23上に接触するエッチング不良が生じた場合、有機絶縁膜20による絶縁が行われず、有機絶縁膜20上に形成される反射電極22とソースバス配線23との絶縁不良が生じるという問題がある。

【0018】また、基板12上の全面に凸部20aを有する有機絶縁膜20を形成するため、反射電極22をバターニングする際、凸部20aによって反射電極22の端部に凹凸が生じ、反射電極22のバターニング不良が生じるという問題がある。

【0019】さらに、凸部20aの平面形状が円形のみとなるので、凸部20aの占める割合が多くなり、このため正反射が多くなり、散乱光による明るい反射特性を有する反射型液晶表示装置を実現できないという問題がある。

【0020】本発明の目的は、上述の問題を解決し、良好な反射特性を有する反射電極を備えた反射型液晶表示装置およびその製造方法を提供することである。

【0021】

【課題を解決するための手段】本発明は、液晶層を介在して対向配置される一対の透明基板のうち、一方の基板上の液晶層側に凹凸を有する絶縁膜を塗布し、その上に他方の基板側からの入射光を反射する表示絵素である複数の反射電極を形成し、他方の基板上の液晶層側にはほぼ全面にわたって透光性を有する共通電極を形成して構成される反射型液晶装置において、前記凸部の断面形状が微細なドーナツ形または円形とドーナツ形との混ざったものであり、その配置が不規則であることを特徴とする反射型液晶表示装置である。

【0022】また本発明は、液晶層を介在して対向配置される一対の透明基板のうち、一方の基板上の液晶層側に凹凸を有する絶縁膜を塗布し、その上に他方の基板側からの入射光を反射する表示絵素である複数の反射電極を形成し、他方の基板上の液晶層側にはほぼ全面にわたって透光性を有する共通電極を形成して構成される反射型液晶表示装置の製造方法において、前記反射電極側の透明基板上に有機絶縁膜を一様に塗布し、その上にホト

レジスト層を塗布し、さらに微細なドーナツ形または円形とドーナツ形との混ざった透孔が不規則に形成されたマスクをホトレジスト層にあてて光を照射することによってホトレジストに孔をあけた後、エッチングを行って有機絶縁膜に凹凸部を作り、その上に金属薄膜を形成することを特徴とする反射型液晶表示装置の製造方法である。

## 【0023】

【作用】本発明に従えば、前記反射型液晶表示装置において、反射電極は、断面形状が微細なドーナツ形または円形とドーナツ形との混ざった凸部によって形成され、その配置は不規則である。また、マスクを用いて凹凸部を形成するので、その形状、特に凹部の深さは一定となり、これによって絶縁不良によるダメージを素子に与えることなく、また入射光を散乱し、明るい反射特性を有する。

【0024】さらに反射板の反射機能を有する薄膜を形成した面が、特に視差が問題になる場合には液晶層側、すなわち液晶層とほぼ隣接する位置に配置されている構成とすることができます。

【0025】また、前記反射機能を有する薄膜が、誘電体ミラーやコレスティック液晶を用いたノッチ形フィルタの絶縁性薄膜であってもよいが、金属薄膜としても差し支えがない。さらに、この場合には前記透光性基板に形成された電極とは前記液晶層を挟んで対向する電極としても機能を付与することができる。

## 【0026】

【実施例】以下、実施例でもって本発明をより具体的に説明する。

【0027】図1は、本発明の一実施例である反射型液晶表示装置30の断面図であり、図2は図1に示される基板31の平面図である。ガラスなどから成る絶縁性の基板31上に、クロム、タンタルなどから成る複数のゲートバス配線32が互いに平行に設けられ、ゲートバス配線32からはゲート電極33が分岐している。ゲートバス配線32は、走査線として機能している。

【0028】ゲート電極33を覆って基板31上の全面に、窒化シリコン(Si<sub>x</sub>N<sub>y</sub>)、酸化シリコン(SiO<sub>x</sub>)などから成るゲート絶縁膜34が形成されている。ゲート電極33の上方のゲート絶縁膜34上には、非晶質シリコン(以下、a-Siと記す)、多結晶シリコン、CdSeなどから成る半導体層35が形成されている。半導体層35の両端部には、a-Siなどから成るコンタクト電極41が形成されている。一方のコンタクト電極41上にはチタン、モリブデン、アルミニウム等から成るソース電極36が重疊形成され、他方のコンタクト電極41上にはソース電極36と同様にチタン、モリブデン、アルミニウムなどから成るドレイン電極37が重疊形成されている。

【0029】図2に示すようにソース電極36には、ゲ

ートバス配線32に前述のゲート絶縁膜34を挟んで交差するソースバス配線39が接続されている。ソースバス配線39は、信号線として機能している。ソースバス配線39も、ソース電極36と同様の金属で形成されている。ゲート電極33、ゲート絶縁膜34、半導体層35、ソース電極36およびドレイン電極37は、TFT40を構成し、該TFT40は、スイッチング素子の機能を有する。

【0030】ゲートバス配線32、ソースバス配線39およびTFT40を覆って、基板31上全面に有機絶縁膜42が形成されている。有機絶縁膜42の反射電極38が形成される領域には先細状で先端部の断面形状がドーナツ形または円形の凸部42a、42bが高さHで形成されており、ドレイン電極37部分にはコンタクトホール43が形成されている。有機絶縁膜42の形成方法やこれにコンタクトホール43を形成する工程上の問題、および液晶表示装置30を作成する際のセル厚のばらつきを小さくするため、ドーナツ形または円形の凸部42a、42bの高さHは10μm以下が好ましい(一般にセルの厚さは10μm以下である)。有機絶縁膜42のドーナツ形または円形の凸部42a、42bの形成領域上にアルミニウム、銀などから成る反射電極38が形成され、反射電極38はコンタクトホール43においてドレイン電極37と接続される。さらにその上には配向膜44が形成される。

【0031】他方の基板45上には、カラーフィルタ46が形成される。カラーフィルタ46の基板31の反射電極38に対向する位置にはマゼンタまたは緑のフィルタ46aが形成され、反射電極38に対向しない位置にはブラックのフィルタ46bが形成される。カラーフィルタ46上の全面にはITOなどから成る透明な電極47、さらにその上には配向膜48が形成される。

【0032】両基板31、45は、反射電極38とフィルタ46aとが一致するよう対向して貼り合わせられ、間に液晶49が注入されて反射型液晶表示装置30が完成する。

【0033】図3は、図1および図2に示されるドーナツ形または円形の凹凸を有する反射電極38を基板31上に形成する形成方法を説明する工程図であり、図4は図3に示す形成方法を説明する断面図であり、図5は図3の工程s7で用いられるマスク51の平面図である。図4(1)は図3の工程s4を示し、図4(2)は図3の工程s7を示し、図4(3)は図3の工程s8を示し、図4(4)は図3の工程s9を示している。

【0034】工程s1では、ガラスなどから成る絶縁性の基板31上にスパッタリング法によって3000Åの厚さのタンタル金属層を形成し、この金属層をホトリソグラフ法およびエッチングによってパターニングを行い、ゲートバス配線32およびゲート電極33を形成する。工程s2では、プラズマCVD法によって4000

Åの厚さの窒化シリコンから成るゲート絶縁膜34を形成する。

【0035】工程s3では、半導体層35となる厚さ1000Åのa-Si層と、コンタクト層41となる厚さ400Åのn<sup>+</sup>型a-Si層とをこの順で連続的に形成する。形成されたn<sup>+</sup>型a-Si層およびa-Si層のパターニングを行い、半導体35およびコンタクト層41を形成する。工程s4では、基板31の全面に厚さ2000Åのモリブデン金属をスパッタ法によって形成し、このモリブデン金属層のパターニングを行って、ソース電極36、ドレイン電極37およびソースバス配線39を形成し、TFT40が完成する。図4(1)は、工程s4までの処理終了後のTFT40が形成された基板31の断面図である。

【0036】工程s5では、TFT40を形成した基板31上全面にポリイミド樹脂(商品名:JSS-742;日本合成ゴム株式会社製)を、1200rpmで2.0秒間スピンドルトし、2μmの厚さに形成し、有機絶縁膜42を形成する。工程s6では、ホトリソグラフ法およびドライエッティング法を用いて有機絶縁膜42にコンタクトホール43を形成する。工程s7では、有機絶縁膜42上にホトレジスト50を塗布し、図5に示されるマスク51を用いて反射電極38形成領域のホトレジスト50にドーナツ形の凸部50aと円形の凸部50bとをパターニングする。さらに、ドーナツ形および円形の凸部50a、50bの角を取るために、120℃～250℃の範囲で熱処理を行う。本実施例では、200℃、30分の熱処理を行った。図4(2)に、工程s7までの処理終了後の基板31の断面図を示す。マスク51には、反射電極38形成領域に図5の斜線で示すドーナツ形および円形の遮光領域51aが不規則に形成されている。

【0037】工程s8では、図4(3)に示されるように、ホトレジスト50のない部分の有機絶縁膜42をエッティングして高さHが1.0μmのドーナツ形の凸部42aと円形の凸部42bとを形成する。このとき、ホトレジスト50に熱処理を行い、ドーナツ形および円形の凸部の角を取ってあるため、ドーナツ形の凸部42aと円形の凸部42bもまた角が取れた形に形成される。また、コンタクトホール43およびTFT40上の有機絶縁膜42はホトレジスト50によって保護されており、エッティングが行われない。エッティングが終われば、薬品で洗浄するか、光照射でホトレジスト50を取りさる。

【0038】工程s9では有機絶縁膜42上全面にアルミニウム層を形成し、図4(4)に示されるように、ドーナツ形の凸部42aと円形の凸部42bとの上に反射電極38を形成する。この状態の基板31を、反射電極38を有する基板52とする。反射電極38は、有機絶縁膜42に形成されたコンタクトホール43を介してTFT40のドレイン電極37と接続されている。

【0039】有機絶縁膜42上の凸部の形状は、マスク51の形状、ホトレジスト50の厚さ、ドライエッティングの時間によって制御することができるが、さらに他の有機絶縁膜を塗布してもよい。ドーナツ形の凸部42aおよび円形の凸部42bの形状の一例を図6に示す。

【0040】以上の工程によって、反射電極38を有する基板52を得た。また上述の製造工程において、有機絶縁膜42のドライエッティング時間を長くして、ドーナツ形の凸部42aと円形の凸部42bとのそれぞれの高さHを1μmとした基板31を得ることができ、高さHが1μmである反射電極38を有する基板31を基板59とする。

【0041】図1に示される他方の基板45に形成される電極47は、たとえばITOから成り、厚さは1000Åである。配向膜44、48は、ポリイミドなどを塗布後、焼成することによって形成されている。基板31、45間には、たとえば7μmのスペーサを混入した図示しない接着性シール剤をスクリーン印刷することによって液晶49を封入する空間が形成され、前記空間を真空脱気することによって液晶49が注入される。液晶49としては、たとえば黒色色素を混入したゲストホスト液晶(メルク社製、商品名ZL12327)に、光学活性物質(メルク社製、商品名S811)を4.5%混入したもの用いる。

【0042】図7は、反射電極67を有する反射板70の反射特性の測定方法を示す断面図である。反射板70を実際に液晶表示装置に用いる場合を想定し、液晶層とガラス基板の屈折率はいずれも約1.5とほぼ等しいので、反射電極67を有する反射板70上に屈折率1.5の紫外線硬化接着樹脂63を用いてガラス基板62を密着し、測定装置61を形成する。ガラス基板62の上部には、光の強度を測定するフォトマルチメータ64が配置されている。フォトマルチメータ64は、反射板67に対して入射角θで入射する入射光65のうち、反射電極70によってガラス基板69の法線方向に反射する散乱光66を検出するように、反射板70の法線方向に固定されている。

【0043】測定装置61に入射される入射光65の入射角θを変化させて反射電極67による法線方向の散乱光66を測定することによって、反射電極67の反射特性が得られる。

【0044】図8は、図1に示すドーナツ形と円形との凸部をもった反射電極38の反射特性を示すグラフである。図8において入射角θをもって入射する光の反射強度はθ=0°の線に対する角度θの方向に原点0からの距離として表されている。反射電極38の反射特性を黒三角で示す。白丸で示す反射特性曲線は、標準白色板(酸化マグネシウム)について測定したものである。

【0045】図9は、前述の図13に示す従来の凸部の形状が円形のみの反射電極22による反射特性を示すグ

ラフである。円形とドーナツ形との混ざった凸部を有する反射電極38の反射特性と、円形のみの凸部を有する反射電極とを比較すると、前者の方が反射特性がよく、明るい表示が得られることがわかる。

【0046】ポリイミド樹脂の種類や膜厚、レジストの熱処理温度を適当に選択すると凹凸の傾斜角度を自由に制御することができ、これによって反射強度の入射角 $\theta$ の依存性を制御できる。その上に塗布する有機絶縁膜の種類や膜厚を変えることによっても反射強度を制御できる。

【0047】また、マスク51の打ち抜きの部分の占める割合を変えることによって、正反射成分の大きさも制御することができる。

【0048】さらに、本実施例では、円形とドーナツ形との形状を組合せたが、ドーナツ形のみの形状でも同様の効果がある。

【0049】反射率の測定は、前述の図7の反射板の位置に、上記の反射型液晶表示装置を置いて測定した。反射率は、入射角 $\theta = 30^\circ$ をもって入射する入射光について説明され、標準白色板における法線方向への拡散光に対する、表示装置における法線方向への拡散光の強度の比率を求ることによって得られる。

【0050】本実施例の反射型液晶表示装置では、反射型アクティブマトリスク基板33の反射電極32を形成した面が、液晶層側に配置されているので視差がなくなり、良好な表示画面が得られる。また、本実施例では反射型アクティブマトリスク基板33の反射薄膜が液晶層側、すなわち液晶層にほぼ隣接する位置に配置されている構成となるので、凸部の高さHはセル厚よりも小さく、凸部の傾斜角度は液晶の配向を乱さない程度に緩やかにするのが望ましい。

【0051】さらに、本実施例では有機絶縁膜のパターンングをドライエッチング法によって行ったが、有機絶縁膜がポリイミド樹脂の場合にはアルカリ溶液によるウエットエッチング法によって行ってもよい。また、有機絶縁膜としてポリイミド樹脂を用いたが、アクリル樹脂などの他の有機材料を用いることができる。さらに、基板としては、本実施例ではガラス基板を用いたが、Si基板のような不透明基板でも同様な効果が発揮され、この場合には回路を基板上に集積できるメリットがある。

【0052】なお、本実施例では表示モードとして相転移型ゲスト・ホストモードを取り上げたが、これに限定することなく、たとえば2層式ゲスト・ホストモードのような他の光吸収モード、高分子分散型LCD(液晶表示装置)のような光散乱型表示モード、強誘電性LCDで使用される複屈折表示モードなど、本発明にかかる反射型アクティブマトリスク基板およびその製造方法の適用は可能である。スイッチング素子としてTFTを用

いた場合について説明したが、他のたとえばMIM(Metal Insulator Metal)素子、ダイオード、バリスタなどを用いたアクティブマトリスク基板にも適用することができる。

【0053】有機絶縁膜に用いる樹脂にレジスト(OFR-800)を用いたものは、さらに干渉光を少なくできる効果がある。

【0054】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、ドーナツ形と円形との混ざったマスクを用いることによって、凸部がドーナツ形と円形との混ざった一定パターンの絶縁膜を得、その上に反射電極を形成し、良好な反射特性を有する反射型液晶表示装置を再現性よく製造できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例である反射型液晶表示装置30の断面図である。

【図2】図1に示される基板31の平面図である。

【図3】図1および図2に示される基板31上にドーナツ形および円形の凸部を有する反射電極38を形成する方法を説明する工程図である。

【図4】図3に示す形成方法を説明するための基板31の断面図である。

【図5】図3の工程s7で用いるマスク51の平面図である。

【図6】図3の工程で形成された反射電極38の凸部の形状の一例を示す平面図および断面図である。

【図7】反射電極67の反射特性を測定する装置の原理を説明する断面図である。

【図8】本発明のドーナツ形および円形の凸部を有する反射電極の反射特性を示すグラフである。

【図9】従来技術による円形のみの凸部を有する反射電極22の反射特性を示すグラフである。

【図10】従来技術に用いられる反射型液晶表示装置の基板2の平面図である。

【図11】図10に示される切断面線X1-X1から見た断面図である。

【図12】従来技術に用いられるその他の反射型液晶表示装置の基板12の平面図である。

【図13】図12に示される切断面線X11-X11から見た断面図である。

【符号の説明】

30 反射型液晶表示装置

38 反射電極

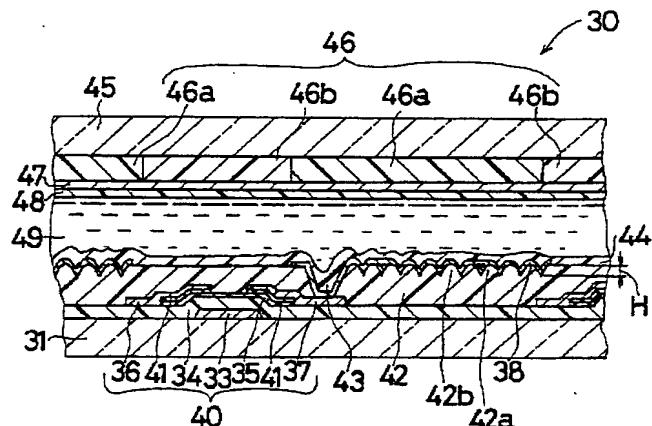
42 有機絶縁膜

42a ドーナツ形の凸部

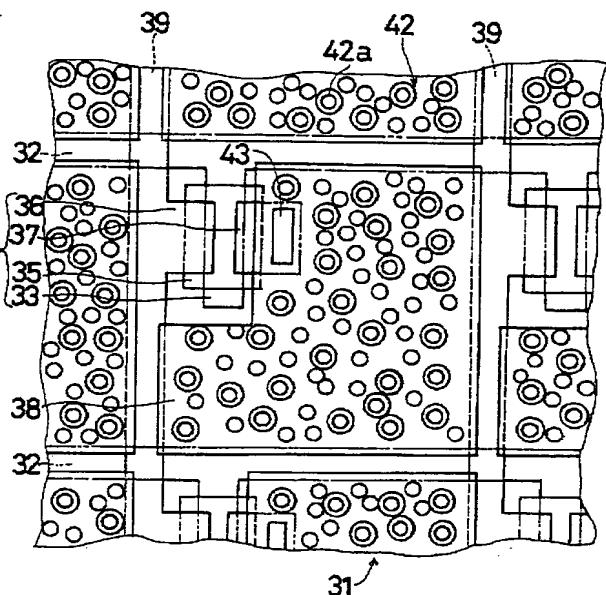
42b 円形の凸部

51 マスク

【図1】



【図2】



【図3】

ゲートバス配線および  
ゲート電極形成

s1

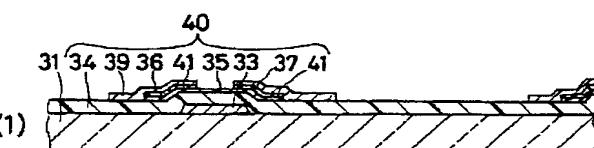
ゲート絶縁膜形成

s2

コンタクト層および  
半導体層形成

s3

【図4】

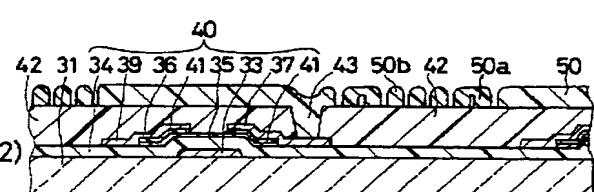


ソース電極、ドレイン電極  
およびソースバス配線形成

s4

有機絶縁膜形成

s5



コンタクトホール形成

s6

レジスト塗布  
パターニング

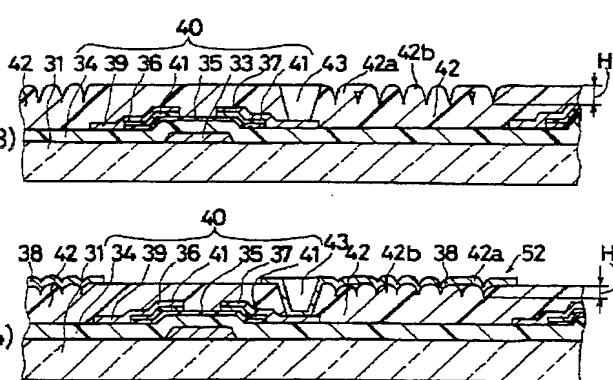
s7

凸部形成

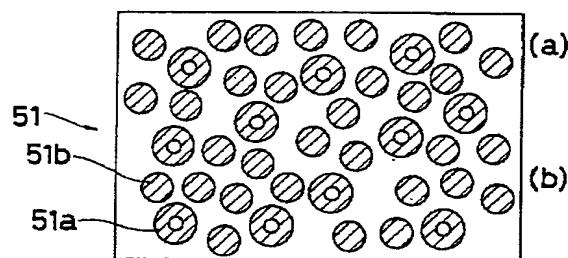
s8

反射電極

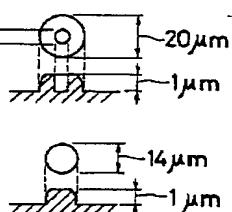
s9



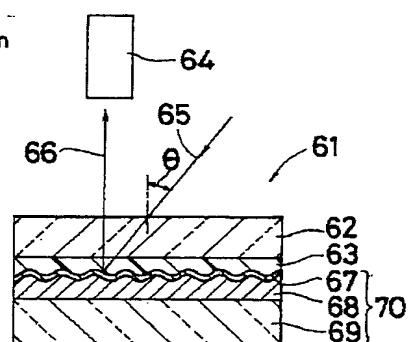
【図5】



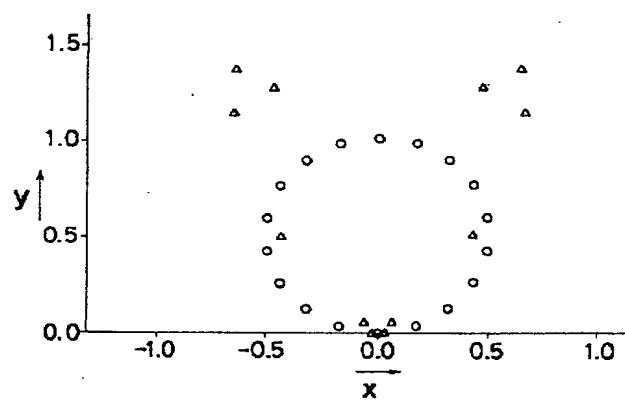
【図6】



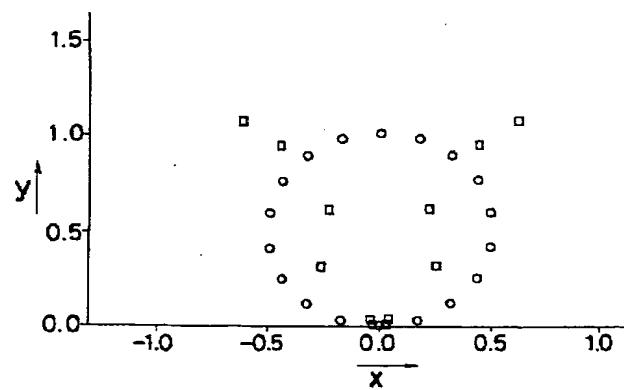
【図7】



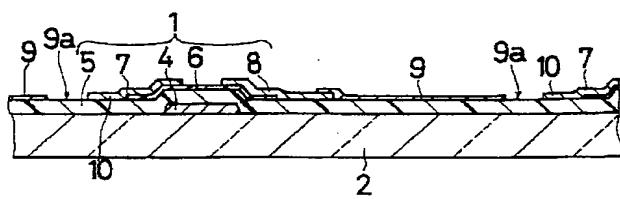
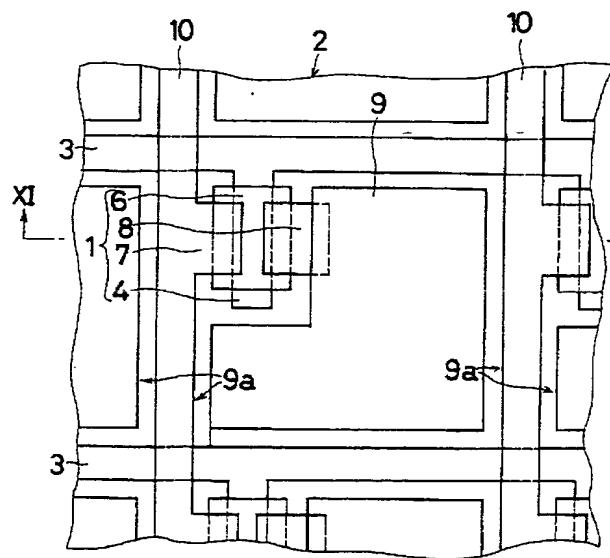
【図8】



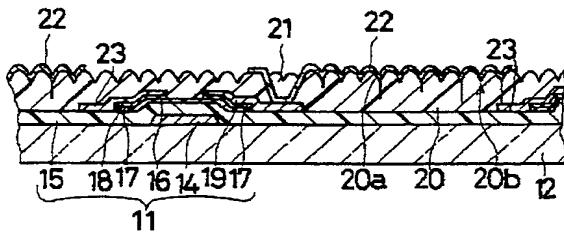
【図9】



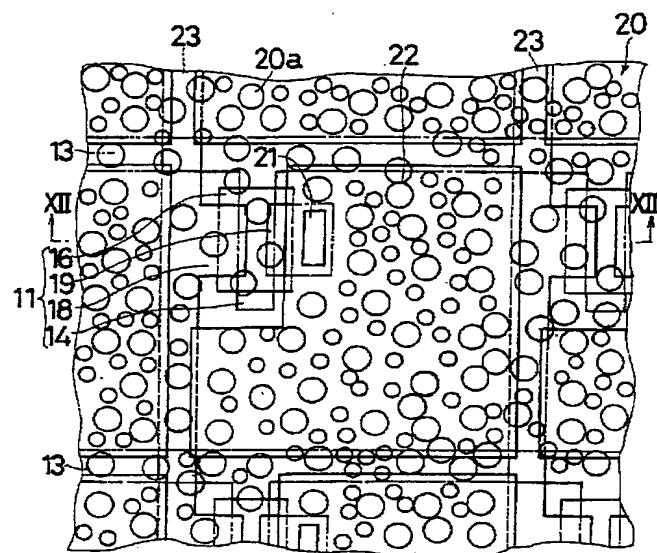
【図10】



【図13】



【図12】



(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 08095071 A

(43) Date of publication of application: 12 . 04 . 96

(51) Int. Cl.

G02F 1/1343  
G02F 1/1335  
G02F 1/136

(21) Application number: 06233703

(22) Date of filing: 28 . 09 . 94

(71) Applicant: SHARP CORP

(72) Inventor: KIMURA TADASHI

(54) REFLECTION TYPE LIQUID CRYSTAL DISPLAY DEVICE

(57) Abstract

PURPOSE: To provide a reflection type liquid crystal display device which is bright and does not deteriorate display grade due to peeling of a reflection electrode.

**CONSTITUTION:** A plurality of gate bus wirings 52 and source bus wirings 53 are formed on the surface on the liquid crystal layer side of an insulating substrate 78 constituting one substrate 51 of a pair of substrates oppositely arranged through a liquid crystal layer, so that they are squarely crossed with each other while holding insulation. A reflection electrode 54 is formed in the rectangular area formed by crossing the wirings 52, 53 with each other. The reflection electrode 54 and the wirings 52, 53 are connected together through a TFT element 55. The reflection electrode 54 is provided with recessed and projecting surface, and the ratio of the territory removing recessed parts 60a, 60b to the marginal part area is selected in the range of 60%-100% in the marginal part 54a of the reflection electrode 54.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

